

## 『組織科学』へ投稿が可能な未公開の論文について

2020年3月24日版

組織科学編集委員会

『組織科学』では、執筆・投稿規程第11条にて、「査読付き投稿論文は、執筆者のオリジナルの未公開学術論文でなければならない。」と定めています。『組織科学』への投稿における公刊の判断では、執筆言語にかかわらず、次のA)とB)のいずれかに当てはまる原稿は、公刊された論文とみなされます。

A) 他の学術雑誌（大学や研究所等の紀要を含む）に掲載されている論文

B) 学会報告の際に提出した予稿・報告要旨・記録などのうち、本文（図表や脚注を含むが参考文献は除く、以下、同じ）が4ページ（日本語：5,600字、英文：3,000words）を超過しており、かつISBNまたはISSNが付与された媒体に掲載されている論文

ただしB)については、その原稿から研究に進展があり、追加的な貢献がある場合には、これらの原稿をもとにした論文の投稿を受け付ける場合があります。追加的な貢献の有無は、「『組織科学』の編集方針」に従い、編集委員会が判断するため、査読付き投稿論文へ応募する際には、関連する原稿の存在を申告すると共に、当該原稿もあわせて提出して下さい。

他方で、類似の研究成果を記載した原稿が公開されていた場合でも、原稿やそれを掲載した媒体にISBNやISSNが付与されていないものは、原則として、暫定的な研究成果報告とみなし、当該原稿の『組織科学』へ投稿を受け付けます。そうした成果物としては、具体的には、次のものが想定されます。

C) ワーキングペーパー／ディスカッションペーパー

D) 研究助成の報告書や奨学金支給を目的とした懸賞論文

E) 組織学会ドクトラル・コンソーシアム査読付報告論文

F) 機関リポジトリに登録された博士論文

G) 学会報告の際に提出した予稿・報告要旨・記録などのうち、それらを掲載した媒体にISBNまたはISSNが付与されていないもの

H) 学会報告の際に提出した予稿・報告要旨・記録などのうち、それらを掲載した媒体にISBNまたはISSNが付与されているものの、本文が4ページ（日本語：5,600字、英文：3,000words）以内のもの

ただし、ISBNやISSNが付与されていなくとも、以上の例示に含まれない場合、例外的に公刊された論文とみなされる場合もあります（例：研究叢書に収録された論文）。ご不明な点がある場合、投稿前に組織科学編集委員会まで、類似の研究成果を記載した原稿をあわせてご提出の上、ご相談下さい。

以上